

美風



修学旅行

小学校生活の一大イベント。3月8日（月）に奈良県への修学旅行に出かけました。延期や行き先の変更がありましたが、6年生75人全員が参加することができました。

【奈良公園】

最初の見学地は奈良公園でした。バスから降りて東大寺大仏殿へ向かう途中、大きな南大門を見学しました。その迫力に、多くの児童が驚いていました。南大門を抜けると、さらに大きな大仏殿が姿を現しました。大仏殿へと繋がる石畳の道には、仏教が伝わった国の石が使われているとガイドさんからの説明を受けました。その石がどの国の石なのかを考えながら、一步一步大仏殿へ進んで行きました。1000年以上前の人々が作った奈良の大仏。社会科の授業での学習を振り返りながら、本物の大きさと迫力に圧倒されていました。大仏殿の見学を終えると、昼食会場まで、班でのウォークラリーを行いました。チェックポイントは二月堂と三月堂でした。どの班も決められた時間よりも前に到着することができ、6年生の成長を感じました。そして、待ちに待った昼食と買い物。1組は昼食、2組は買い物からスタートしました。買い物では3000円の小遣いをどのように使うかを電卓で計算をしながら上手に買い物をしている人もいました。買い物後には、多くの児童が野生の鹿に鹿せんべいを与えていました。鹿を手なずけている子、鹿に迫られている子、どの子も楽しい一時になったのではないかと思います。



【法隆寺】

奈良公園の鹿とお別れをして、次の見学地の法隆寺へと向かいました。法隆寺は、聖徳太子が活躍した飛鳥時代の中心となった場所です。真下から見る五重の塔はとても立派でした。また、資料館では当時の宝物や仏像を見学しました。

修学旅行を通して、「時を守り、場を清め、礼を正す」を意識して行動しようとする6年生の姿を見ることができました。卒業まで残りわずかとなった美和小学校での時間を大切にして、修学旅行や六年間の思い出を胸に刻んで巣立ってほしいと思います。



地域力で生まれ変わった北門

美和小学校の校舎は風格があります。多くのお客様をお迎えしてきた北門も、歴史を感じさせてくれる重みがあるのですが、サビがひどくなり古さを否めない様相でした。そんな北門を、地元の商工会の方々が美しく塗り直していただきました。2月6日（土）に、1日かけて丁寧にサビを落とし、下地塗りをしてくださいました。翌日の2月7日（日）には、塗装をして仕上げてくださいました。いずれの日程にも、それぞれ、10人以上もの方々が集まってご尽力くださいました。北門は見違えるほど美くなりました。地元の商工会の皆様、ありがとうございました。新しくなった北門は、見た目が美しいだけでなく、手触りもとてよくなりました。美和小学校を訪れの際は、一度触ってみてください。



地域に支えられて育つ児童

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、学校のあり方が大きく変わった一年でした。臨時休校という、過去に例のない状況から始まり、その後の学校生活も例年と大きく違っていました。歌やリコーダー演奏、給食の会話も控えるようになりました。マスクを着用し、手洗いを徹底し、密を避ける生活は、今も続いています。安心・安全のために自粛した学習活動や学校行事が多々ありました。

そんな中でも、美和小学校の児童は明るく元気です。保護者や地域の方々に支えられているおかげで、ウィズコロナとして、今できる精いっぱいのことに取り組んでこられたからです。8月の暑い中での下校では、保護者の方々や見守り隊の方々が通学路の途中まで児童の様子を見に来てくださったことで、子どもたちの安全と笑顔が守られました。また、保護者のご理解を得て、「ミワリンピック」と分散授業参観を行うことができました。子どもたちは発表の場ができたことで、生き生きとした表情で張り切っていました。また、学校運営協議会の方が講師となってキャリア教育を進めていただく中で、6年生全員で石材を使った大きな作品を作ることができました。とても大きな思い出が形になりました。この取り組みでは、地域の方々に支えられて、普段以上のことができたと感じます。



3月19日には卒業式が予定されています。証書は、市から卒業記念品として贈られた証書ホルダーに納められ、児童一人一人に手渡されます。75名の6年生が、この、慣れ親しんだ美和小学校を巣立っていきます。きっと、小学校生活の集大成として、立派な姿を見せてくれることでしょう。そして、4月6日には新入生を迎え、令和3年度の美和小学校がスタートします。来年度も、保護者や地域の方とともに、職員一同頑張っていく所存ですので、本年度同様、地域のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

【教頭 川口 歩】